

# 哲學研究

第三十卷 第二十册

第三百五十三號

昭和三年十二月一日發行

龍樹に於ける物と相の問題(下).....

——(中論觀六種品の研究及解釋)——..... 稻津紀三

アリストテレスの運動について(下).....

..... 文學士 小島威彦

コーヘンに於ける根源と非有(完).....

..... 文學士 由良哲次

彙報.....

本年度總目錄其他.....

京都帝國大學文學部

京都哲學會



# 前 號 目 次

辨證法の論理(承前).....	文學博士 田、邊 元
龍樹に於ける物と相の問題(上).....	稻津紀三
——中論觀六種品の研究及解釋——	
アリストテレスの運動について(上).....	文學士 小島威彦
彙報.....	



會 告

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪叁〇六六三番、内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄附雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- ㊦ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ㊥ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
- ㊤ 振替貯金にて御送金(振替大阪三三九五五番三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候前金切れの場合は帯封に「前金切」の印章捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ㊤ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參證御送付下され度候

定 價

册	數一定	價	郵	稅
一册	册	金四拾錢	壹	錢
六册(前金)	册	金貳圓四拾錢	申	受
十二册(前金)	册	金四圓八拾錢	不	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和三年十一月廿五日印刷納本  
昭和三年十二月一日發 行 第百五十三號 第十三卷  
第十二册

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 高橋俊乘

發行者 須磨勤兵衛

印刷者 須磨勤兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社印刷部

發行所

京都府下京區西洞院七條南 内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三三九五五番  
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入

販賣所 京都市日本橋區本銀町三ノ十四 内外出版印刷株式會社

(東京) 寶文館 東京堂 東海堂

賣捌所 (大阪)

(神戸) 寶文館 上田屋 參文社  
(京都) 共盛社 川瀨書店

不許複製  
禁轉載

文學博士

澤柳政太郎序  
服部操著

〔啓明會  
補助出版〕

〔四六判背革函入〕  
三段組千三百頁

# 漢字索引

# 日華大字典

## 日華兩國

## 文化鍵書 の 親善貢獻

本字典は斯界の權威者たる著者が、多年心血を注いで編纂せるものにて前人未開拓の間に坦々たる一新路を披いたものである。

(二)(一) 凡そ我國に常用せらる、四千餘の漢字に就いて、一々其を文法的に分類釋明し、其の漢字もて成れる六萬餘の成語、俗語、熟語は、口語と文語とを論ぜず、蒐集網羅し、又例句を示して、文語は文語に、口語は口語に、一々十分に華譯せられてある。

而して其最も力を致したものは口語俗語等の對譯である。

(三) 附録俚諺集は、我俚諺の重要なもの數百を採つて之を華譯し、又は彼の相類似したものを舉げて、對照載録したものである。

日華親善の聲徒らに高けれども其效まことに空しきを憾み、本社は啓明會の補助の上に尙多大の犠牲を拂つて本書をその貢獻の爲めに提供せり。

四六判千三百頁每頁三段、每段二十七行二十三字詰、優に他の數千頁に比するに足る。印刷の鮮明と體裁の優美と製本の堅牢と價格の低廉とは本社の誇りとする所である。◎内容見本申込次第進呈

料	送	留	書	定價金拾圓
	滿	支	内地	
鮮	那	參	拾	六
八	九	拾	拾	錢
拾	拾	錢		
五				
錢				

寶文館

東京 大坂 京都 本岡 銀崎 町橋

賣捌所

社會

南條七院洞西市都京  
株式出版外內  
番一三九三阪大替振

發行所